

貧酸素水塊速報 (2016年)

【発行】 ○ 千葉県水産総合研究センター
 神奈川県水産技術センター
 【協力】 千葉県環境研究センター
 第三管区海上保安本部
 ○ モニタリングポスト(海上保安庁, 国土交通省 関東地方整備局)
 千葉県農林水産技術会議
 ○ 内湾底びき網研究会連合会
 ○ 東京都環境局
 (国) 国立環境研究所
 (今回の速報は“○”の機関の観測データを使用して作成しました)

平成28年9月12～13日観測結果

8月中旬以降縮小傾向にあった貧酸素水塊は、9月に入って再び発達し、現在は内湾北部のほぼ全域から盤洲沖にかけて広く分布しています(図1)。内湾北部の所々では、溶存酸素量が0.5ml/Lを下回る、強く貧酸素化した水塊が認められます。縦断ラインの鉛直分布をみると、船橋から川崎人工島付近までの水深10m以深は貧酸素化しており、またその規模も8月中旬に比べ大きくなっています(図2, 3)。

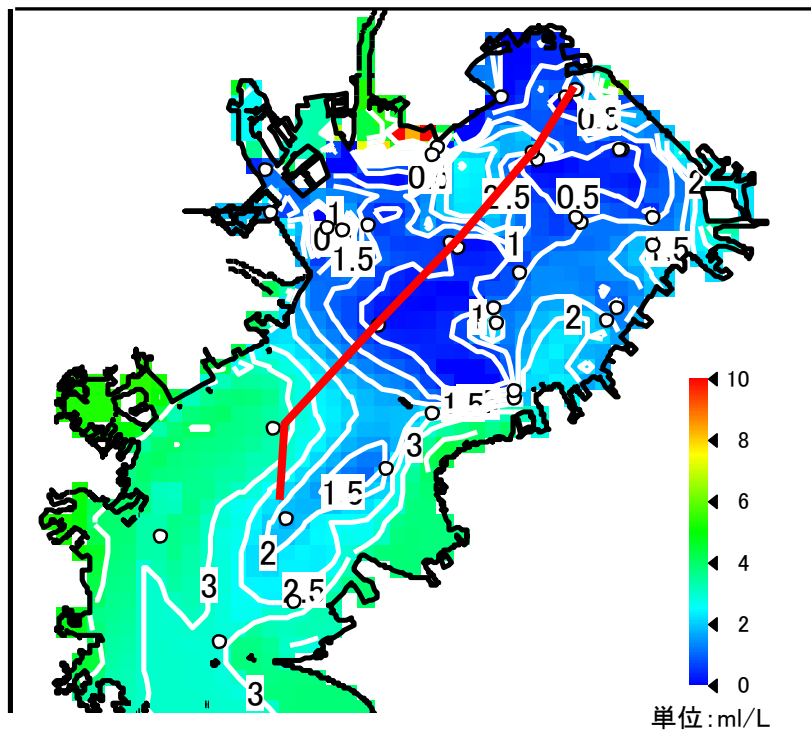


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)

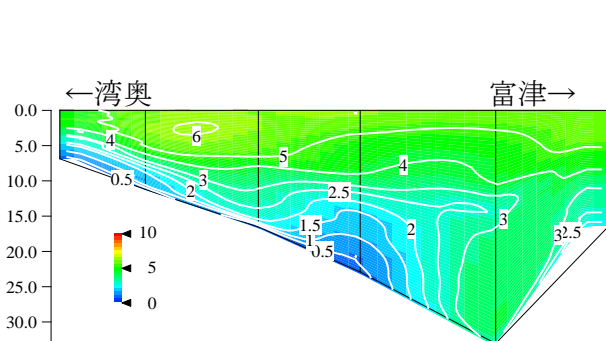


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

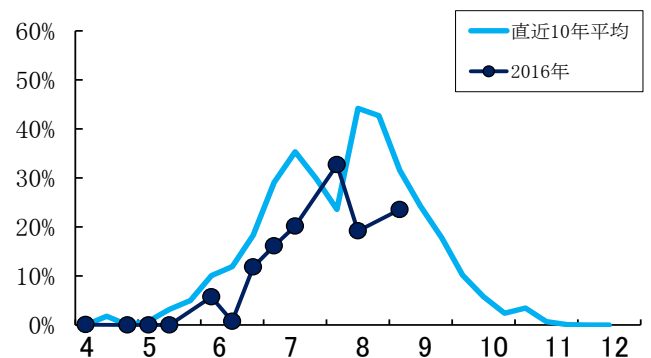


図3 貧酸素水塊の規模
(左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)